

国際関係論 I

2 units 3rd-year(1st semester)

Kazuhiko Aiba · PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

Target) 米ソがにらみ合った冷戦中は、明日にも第三次世界大戦が起き、核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった。89年、米ソ首脳が握手をかわし、幸運にも人類は冷戦を脱した。ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが、まもなく幻滅が広がった。噴出する内戦・民族紛争と、拡大する貧富の格差。新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると、9/11テロの衝撃が世界を揺るがした。そして今、アフガン戦争、イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され、国際社会はいったい、どこに行こうとしているのか。この授業では、こうした変動する現代国際社会の現実を知り、そこで生起する諸問題について、特に平和と戦争に関係する観点を中心に、考察する。

Outline) 国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ。授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも、筆者のフィールドワーク(紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など)や、新聞記者の経験などに基づく”教科書に載っていない”解説も試みたい。また、適宜、時事的な国際ニュースも取り上げ、ビデオやスライドも使う。国際関係論 I では、主に総論的、理論的、概念的な問題を扱う。

Notice) 国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており、一方だけ受講することもできるが、I で総論的、基礎的な解説を行い、II ではそれを元に各論的、発展的な内容になる面もあるので、連続して受講する方が望ましい。

Goal)

1. 国際社会の性質、特徴を理解すること。
2. 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、基本的な事実関係、実態を知ること。
3. 国際政治と国際法の基本について、とらえ方、原理、原則を把握すること。
4. 「冷静な現実主義」と、「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと。

Schedule)

1. (日) 国際社会の成り立ちと特徴(1)
2. (日) 国際社会の成り立ちと特徴(2)
3. 国際法の基本(1)
4. 国際法の基本(2)
5. 国際社会を見る理論的枠組(1)
6. 国際社会を見る理論的枠組(2)
7. 国際安全保障の諸理論(1)
8. 国際安全保障の諸理論(2)
9. 民族とアイデンティティ(1)

10. 民族とアイデンティティ(2)

11. 民族紛争(ルワンダ、旧ユーゴ、コソボなど)(1)

12. 民族紛争(ルワンダ、旧ユーゴ、コソボなど)(2)

13. 戦争の違法化(1)

14. 戦争の違法化(2)

15. 補足と総括

16. 試験

Evaluation Criteria) 授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらおうが、それらで出欠の確認も行う。試験は論述式(短答式と長文論述併用)の期末試験を行う。持ち込み不可。成績は試験の結果に、出席状況、授業中の質疑応答などを加味して判断する。

Re-evaluation) 行わない。ただし、僅差で合格点に達しない受講者には、一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える。

Textbook) 教科書は特に指定せず、授業中に配布するレジюме、資料に沿って解説する。参考書などは適宜、紹介する。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219152>

Contact)

⇒ Aiba (+81-88-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 木曜日13:30~14:30, 金曜日14:30~16:00. この時間以外でも在室時は随時可.)